

再会は突然に



みるゆ
魅流愉

© みるゆ 魅流愉 miruyu 2012

懐かしさよりも
新鮮さで溢れている

ちよつとした用事で
五年ぶりに訪れた街は
記憶と随分違っていて

せっかくこの街に
来たんだから……

あの娘に
会おう

えーと確か
ここだよな

引越して
たりして……

進藤マリ 二十二歳

ホヒッ





待っててね
マリ姉

一次方程式
くらい簡単
なんだから



ねえってばー
出来たよ？



よし！

出来たよ
マリ姉！

完璧！

木内ミサキ
十三歳

進藤マリ
十七歳







おいで
ミサキ



ああ…

怒った顔も
超かわいい



はい

ご褒美の
キス

あ



誰?

え?



…やばかったよなー

かわいすぎるから
本気で食べちゃおうかと
思ってたんだよね…



鍵……
締まっていたのに









い...いえ...

何か?



ひっ!



どうしよう...
とりあえず
謝るべきかな



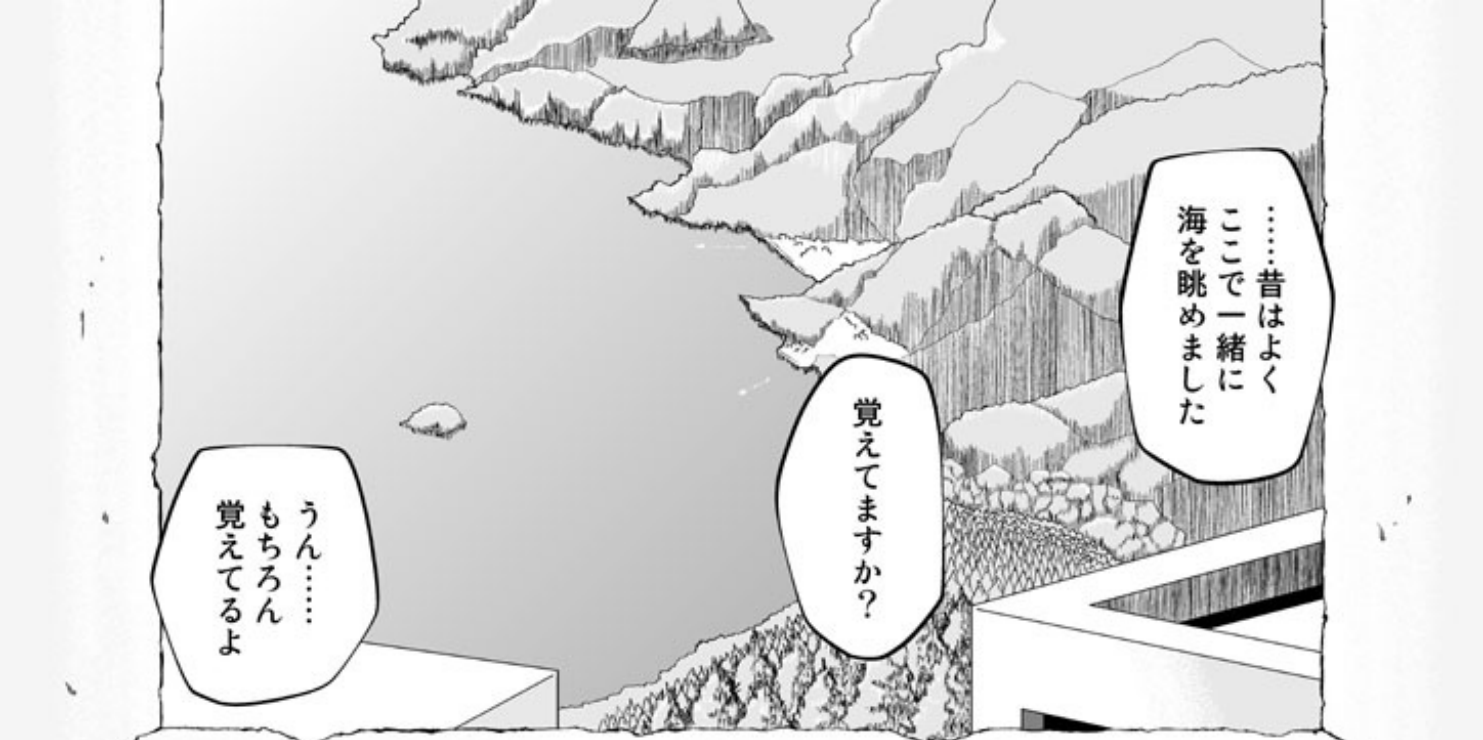
待って

ちよ...
ちよつと
ミサキ



...外に
出ませんか?





……昔はよく
ここで一緒に
海を眺めました

覚えてますか？

うん……
もちろん
覚えてるよ



相変わらず
いい景色だね



小さな
女の娘が
いました



あるところに

女の娘は
学校でいつも
ひとりぼっち
でした

いつも違う男を
連れてくる母親は

男と外出したまま
何日も帰って来ない…
寂しくてたまらない…
そんな日々でした

母親が
水商売を
していると
いうだけで
いじめにあつて
いたからです

辛い記憶ですが女の娘には
もっと辛い記憶があります

進藤マリという
女性が急に
消えてしまった
ことです

女の娘の
人生で一番
辛い記憶です

立ち直れないほど
大きなショックを
受けました

……本当に
酷い人だよね
マリ姉って…

「久しぶりー」
みたいに軽い
感じでき

ふざけないでよ
冗談じゃないよ

あたしの気も
知らないで



初めて会った
ときから

マリ姉に
感じてた気持ち…
今だって少しも
変わってない

それどころか
あたしの中で
どんどん大きく
なって……

マリ姉は女の人だって
わかってるのに……



……ごめん

嫌だよ……

待つのは……

もう……




待ってたんだよ？

マリ姉と再会
出来る日を

気持ちを
伝えたくて

でもどれだけ
待ってもマリ姉は
来なかった……

来なかったんだよ……



大好き！
大好きなの！
マリ姉が好き！

ずっと
伝えたかった！
ずっとだよ！

ずっと
会いたくて！

ずっと
触れたくて！

ずっと
抱きしめて
ほしくて…

ずっと
キスして
ほしくて…

…わたしも
同じ気持ち
だったのに…

怖くなって
逃げてしまった…











うわー

見てよマリ姉
凄く月が綺麗だよ

重い…
ちよっと…

普通わたしが
ミサキを
抱きしめてる
シーンでしょ
ここは…

これじゃわたしの方が
子どもみたいじゃない

ズン
ズン



だってマリ姉
背が小さくて
かわいいんだもん

えへへ

調子に乗って…
あ…いつの間にか
敬語じゃないし

ナナさんが
帰ってきたら
3人で話そう

うん

もう独りで
悩みを
抱えないこと
わかった?

うん!

…わたしたちのことは
どうやって説明しよう…
まあ…なんとかなるさ

再会は突然に（PANDA電子出版社版）

<http://p.booklog.jp/book/52901>

著者：みるゆ（魅流愉）

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/miruyu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52901>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52901>

株式会社PANDA電子出版社（<http://www.e-panda.co.jp/>）

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ